

2026年3月5日

報道関係各位

三菱地所株式会社  
日本電気株式会社

オフィスビルのセキュリティ権限管理を一元化  
**統合型権限管理システム「ReconIDs (レコナイズ)」運用開始**  
顔認証によるオフィスビル運営の効率化・高度化を実現 外販展開も

三菱地所株式会社（東京都千代田区、代表執行役 執行役社長 中島 篤、以下「三菱地所」）と日本電気株式会社（東京都港区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO 森田 隆之、以下「NEC」）は業務提携契約を締結、顔認証技術の活用を軸とした統合型権限管理システム「ReconIDs (レコナイズ)」（商標登録申請中）を共同開発し、このほど運用を開始しました。本システムは、オフィスビルにおける共用部及び専有部セキュリティの権限管理を一元化するもので、オフィスビル運営の効率化・高度化を実現します。

今後、三菱地所本社（大手町パークビルディング）や三菱地所グループ社員が利用できるグループオフィス「MIX 丸の内」（丸の内二丁目ビル）をはじめ、三菱地所グループ運営管理ビルへ順次導入するなど、三菱地所グループでの標準的なセキュリティインフラとして活用するとともに、他社施設や外部テナントへの外販も展開してまいります。

### ■ 「ReconIDs (レコナイズ)」開発の背景

昨今、社会全体でセキュリティの在り方を再考する動きが加速しています。オフィスビルや商業施設、公共空間においては、ICカードの紛失・盗難・なりすましといった、従来のICカードや暗証番号による認証では対応しきれない課題が顕在化しており、より高度で柔軟な認証手段へのニーズが高まっています。特にオフィスビルでは、共用部・専有部など、複数のICカードを持ち歩く煩雑さや、管理会社・テナント企業の管理部門における権限登録・管理の負荷が大きな課題となっており、セキュリティと運用負荷の両面で改良が求められています。顔認証は、非接触でありながら高精度な本人確認が可能であり、感染症対策や利便性、安全性の観点からも実用性が高い技術です。そのため、セキュリティレベルと従業員の利便性の双方を向上させる手段として、顔認証の導入が急速に進んでいます。



また、複数拠点を利用するといった働き方の多様化に伴い、ビルを跨いだセキュリティ管理の必要性が高まっており、統合的な権限管理が企業のDX・業務効率化推進における重要な要素となっております。

こうした背景を踏まえ、世界No.1<sup>\*1</sup>の認証精度を誇る顔認証技術を有するNECと、多数のオフィスビルの運営管理実績を持つ三菱地所の連携により、現場の運用課題に即した、実用性と拡張性を兼ね備えたシステム（特許取得済<sup>\*2</sup>）の開発が実現しました。

※1 NEC は、米国国立標準技術研究所(NIST)による顔認証ベンチマークテストでこれまでにNo.1を複数回獲得。NISTによる評価結果は米国政府による特定のシステム、製品、サービス、企業を推奨するものではありません。

<https://jpn.nec.com/biometrics/evaluation/index.html>

※2 特許番号：第 7612932 号、第 7675916 号、第 7675917 号

## ■ 「ReconIDs (レコナイズ)」の特徴・イメージ図

### ① 複層的な権限設定による柔軟な管理運用

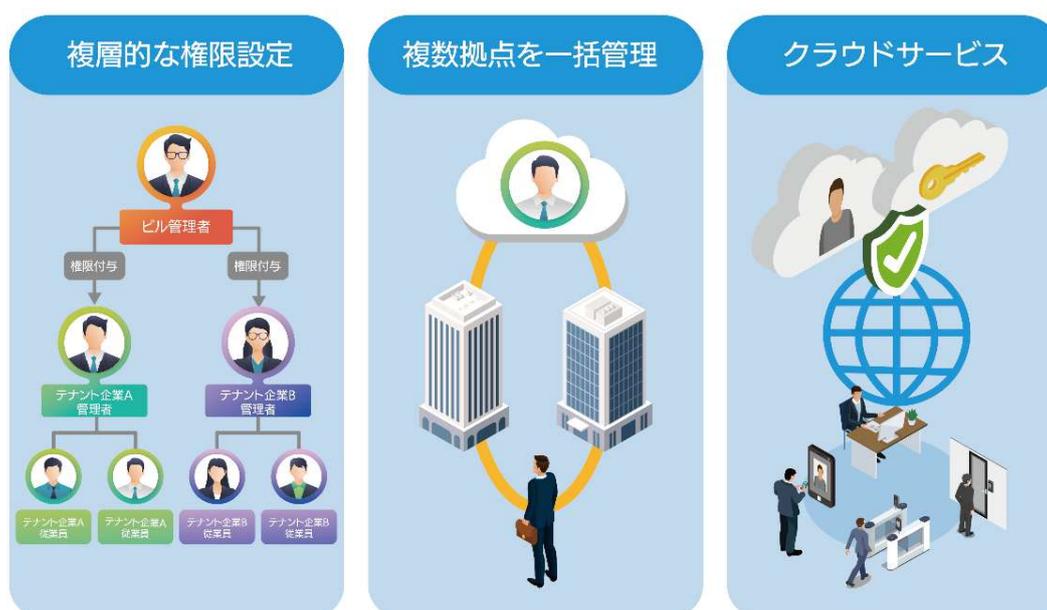
共用部のセキュリティを管理するビル所有者・管理会社は、テナント企業ごとに一部の権限を付与することで、各企業が独自に従業員の情報登録・管理を行える仕組みを構築。これにより、ビル所有者・管理会社側が個人情報に直接扱う必要がなくなり、プライバシーの保護と管理業務負荷の軽減を両立します。

### ② 複数拠点・ビルを跨いだ一括管理

「ReconIDs (レコナイズ)」では、共用部・専有部を含めた複数ビルのセキュリティを、ひとつのアカウントで統合的に管理することが可能です。複数の拠点を持つ企業は、ビルごとに異なるセキュリティの権限情報を個別に管理する必要がなくなります。

### ③ クラウドベースによる高セキュリティ運用

登録された顔情報や権限情報は、クラウド上で高いセキュリティ環境のもと管理されます。これにより、情報漏洩リスクを低減するとともに、ネットワーク接続環境があれば、遠隔からの登録・管理に加えて、利用者個人が自身で顔写真を登録することもでき、柔軟な運用が可能になります。



## ■「ReconIDs（レコナイズ）」の導入実績と今後の展開

「ReconIDs（レコナイズ）」は2025年10月より、三菱地所プロパティマネジメント株式会社の本社（丸の内仲通りビル、丸の内二丁目ビル）の専有部セキュリティに先行導入され、実運用を開始しています。利用者からは、顔認証による入退管理の利便性と、権限付与の即時性が高く評価されています。また、2026年2月には三菱地所本社（大手町パークビルディング）及び三菱地所グループ社員が利用できるグループオフィスであるMIX丸の内（丸の内二丁目ビル）への導入も完了し、複数拠点を跨いだ運用も開始しております。



▲丸の内二丁目ビル



▲大手町パークビル

今後、三菱地所グループ運営管理ビルへの導入を順次予定しており、これらの導入を通じて、本システムを三菱地所グループ内での標準的なセキュリティインフラとしての位置づけを強めるとともに、他社施設や外部テナントへの外販（2027年度以降の施設導入を想定）も本格化してまいります。

また、利用者や施設管理者の多様なニーズに応じて、「ReconIDs（レコナイズ）」自体の機能も継続的に拡充していくとともに、認証手段についても顔認証にとどまらず、静脈認証など他の生体認証技術の導入も視野に入れるなど、利用シーンやセキュリティ要件に応じた柔軟な対応を目指します。

さらに、本人認証を起点とした各種サービスとの連携を図ることで、利用者にとってシームレスでストレスのないユーザー体験の実現を目指します。なお、権限管理の柔軟性を高めることで、オフィスだけでなく、商業施設や複合施設など多様な空間への展開も可能です。これにより働く人や来街者の体験価値を向上させ、まちの価値向上に資するプラットフォームへ進化させます。

三菱地所とNECは、今後も顔認証による入退管理のさらなる利便性向上と、権限管理の柔軟性向上を図りながら、都市空間における安全性と快適性の両立を支えるスマートビルソリューションの提供を推進してまいります。

以上